

科目名	日本語学特講	担当者	オノ マサキ 小野 正樹	期間	通年	単位数	4
-----	--------	-----	-----------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>現代日本語研究の中でも、語用論の先行研究を理解し、コミュニケーションの多様性を分析するための基礎的な能力を身につける。</p> <p>以上の目的を達成することにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、挑戦力、省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 語用論研究に基づいた言語教育やその研究に必要な専門性（知識・技能・態度）を修得する。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・語用論の基盤となる言語理論と分析方法を理解する。 ・それを基に、言語教育の実践例を分析・評価する。 ・自分の教育現場に配慮して、語用論を利用した授業デザインを立案する。 <p>【準備学修項目と準備学修時間】 各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間 レポート執筆：15 時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15 時間</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 manaba folio の掲示板機能を利用して、受講者同士で課題図書に関する疑問点の質疑応答・意見交換を行う。 manaba folio の全受講者用の掲示板機能を利用して、受講者同士で課題図書に関する情報交換を行う。</p> <p>【学修方略（LS）】 manaba folio の全受講者用の掲示板機能を利用して、レポートの推敲課程において、受講者が互いのレポートについてアドバイス行う（ピアレスポンスを行う）。</p>		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題 1 締切：6 月末 ・レポート課題 2 締切：9 月課題締切日 <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題 1 締切：11 月末 ・レポート課題 2 締切：1 月課題締切日 		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	形式（校正、引用の仕方、適切な表現）、内容（論旨の明確さ、独創性、課題把握の適切性）
	平常評価	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<p>日本語環境の多様化や、コミュニケーションツールの発達に伴い、コミュニケーションに変化が指摘されています。規範意識と言語の使用状況をしっかりと理解し、解決方法のための理論を学んで欲しい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 山岡政紀・牧原功・小野正樹 教材名：『コミュニケーションと配慮表現-日本語語用論入門-』 明治書院</p> <p>現代日本語の語用論を理解するための、西洋理論を包括的に扱った本で、現在よく読まれている入門書である。</p>
参考図書	<p>ペネロピ・ブラウン, スティーヴン・C・レヴィンソン(2011), 田中 典子 (監修, 翻訳), 『ポライトネス 言語使用における, ある普遍現象 Politeness : Some Universals in Language Usage』 研究社 滝浦 真人 (2008) 『ポライトネス入門』 研究社</p>
履修上のポイント	<p>談話分析, 発話機能, 配慮表現, 待遇表現, ポライトネスなどについて, 自分で課題を設定し, 議論し, 次にレポートの課題を考える。</p>
レポート課題 1	<p>留意点: 基本教材に書かれている内容を具体的な言語現象と対応づけて理解すること</p>
レポート課題 2	<p>留意点: 身近な言語現象を言語学的に分析することを目的とすること</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 小野正樹・李奇楠(編) 教材名： 『言語の主観性 ―認知とポライトネスの接点』(くろしお出版)</p> <p>本書は, 語用論研究の大きな流れ, 「主観性」「認知」「ポライトネス」といった3つのキーワードを含めている。言語化において主観とは認知そのものでもあり, 対話において主観的な表現にコミュニケーションの摩擦が起きることもある。認知の記述にあたっては, 個人レベルだけではなく, ある言語集団の中で共通した仕組みがある。それを伝える場合にもある慣習的な用法が存在し, それが言語集団の中で求められるポライトネスである。記述文法研究で扱われて来た文法現象をよりプラグマティックに分析する。</p>
参考図書	<p>著者名：井出祥子 教材名：『わかまへの語用論』(大修館書店)</p>
履修上のポイント	<p>日本語らしさを他言語と対照しながら, 日本語学習者の発話の特徴について, 自分で課題を設定し, 議論し, 次にレポートの課題を考える。</p>
レポート課題 1	<p>留意点: 各言語の“らしさ”には視点の置き方による事態把握の特徴がある。日本語の視点について考えて欲しい。</p>
レポート課題 2	<p>留意点: 日本語学習者の発話を観察し, 母語の語用論的転移を考えて欲しい。</p>